

第6章

計画の実現に向けて

マスタープランの実現を図るためには、市民、事業者、行政など多様な主体が、まちづくりの課題や方向性を共有し、協働してまちづくりを推進するとともに、計画的な取組や定期的な進行管理と評価、社会経済情勢の変化に応じた適切な見直しが必要です。

本章では、マスタープランの実現へ向けた方針について示します。

- 1 多様な主体の協働によるまちづくりの推進
- 2 マスタープランの進行管理と見直し



1 多様な主体の協働によるまちづくりの推進

(1) 市民協働によるまちづくりの推進

多様化するまちづくりの課題や市民ニーズに対して、きめ細やかなまちづくりを推進していくためには、行政のみがその役割を担うのではなく、地域の特性や課題等を十分把握した住民、地域組織、NPO、大学、事業者など様々な人々がまちづくりに参画することが重要となります。

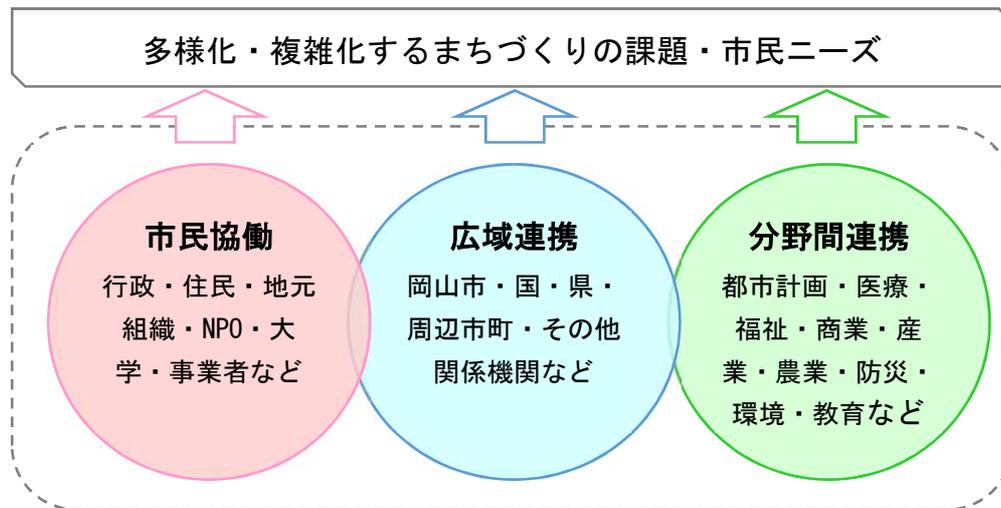
そのため、市民、事業者、行政などの各主体が、自助、共助、公助の考え方に基づいて、相互に連携して役割分担と責任を果たす、市民協働によるまちづくりを推進します。

(2) 広域・分野間連携による都市計画の推進

本市は政令指定都市として、岡山県南広域都市計画区域や岡山連携中枢都市圏等での広域的な役割が求められる一方で、市内では国・県と役割を分担し、道路や河川、公園等の管理を行っています。また、複雑化するまちづくりの課題に対応するためには、医療・福祉・商業・産業・農業・防災・環境・教育など様々な分野が連携した取組も必要となっています。

そのため、都市計画の推進にあたっては、国・県・周辺市町、その他関係する機関、分野と十分連携、協力して、総合的な取組を進めます。

■ まちづくり・都市計画の推進イメージ



(3) 分かりやすい都市計画の推進

市民や事業者、行政等が協働・連携してまちづくりを進めるためには、都市計画に関する十分な情報公開と共通認識、相互理解が前提となります。

そのため、インターネットや広報誌など様々な手段を用いて、マスタープランや都市計画制度の内容、本市のまちづくりの課題などについて、分かりやすい情報の発信に取り組むとともに、都市計画の決定手続きにおいては、公聴会の開催等を通じて、透明性・公平性の確保に努めます。

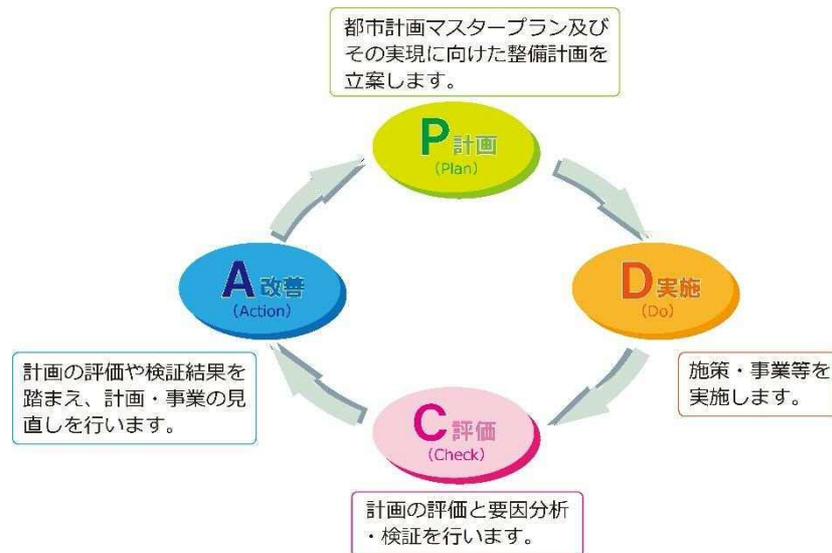
2 マスタープランの進行管理と見直し

(1) 計画的な進行管理

マスタープランは、長期的な視点に立った都市計画の基本的な方針であり、目指すべき都市像を実現していくためには、相当の長期間を要することから、一定の継続性、安定性が求められる一方で、社会情勢の大きな変化にも柔軟に対応していく必要があります。

そのため、計画の立案 (Plan)、各種施策・事業の実施 (Do)、評価・検証 (Check)、改善・見直し (Action) のマネジメントサイクルによる適正な進行管理を行います。

■ PDCA サイクルによる進行管理



(2) 時間軸を考慮した都市の誘導

これまでの都市計画は、区域区分・用途地域などの「土地利用規制」や道路・公園・下水道・土地区画整理事業などの「都市計画事業」を中心として、まちづくりを進めてきましたが、今後、人口が減少に転じ、新たな建築行為や公共事業の減少が見込まれることを踏まえれば、民間の活動や投資を誘導する視点が非常に重要となります。

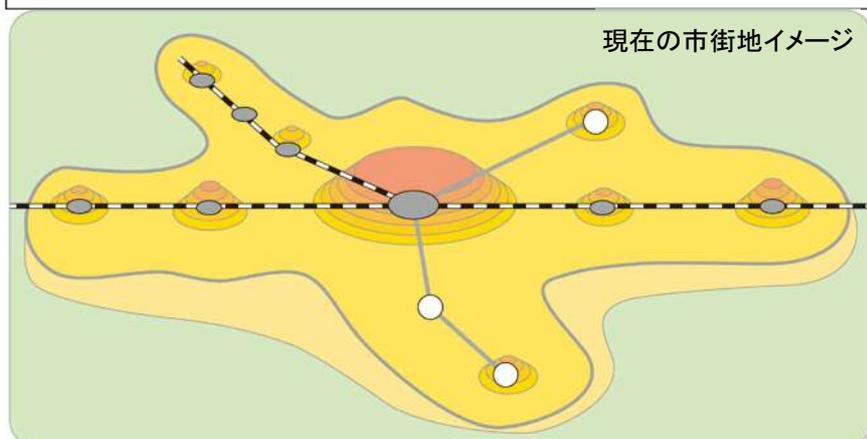
そのため、マスタープランを実現化する実行戦略として「立地適正化計画」を策定するなど、計画的な時間軸の中で、都市機能や居住等の民間投資を適切に「誘導」していくことで、都市像の実現を図ります。

短期・中期的には、公共交通サービスの充実とあわせて、拠点や公共交通の利便性の高い地域へ居住や都市機能を誘導し、過度に自動車に頼らないライフスタイルへの転換を促すとともに、「まちなか」への民間投資を促進していきます。そして、人口の変化や宅地の需要と供給など都市の状況を定期的にモニタリングしながら、技術革新など社会情勢の変化を踏まえた適切な施策を展開します。

このような長期的な時間軸を考慮した都市の誘導により、都市構造を徐々に転換することで将来都市像の実現を図ります。

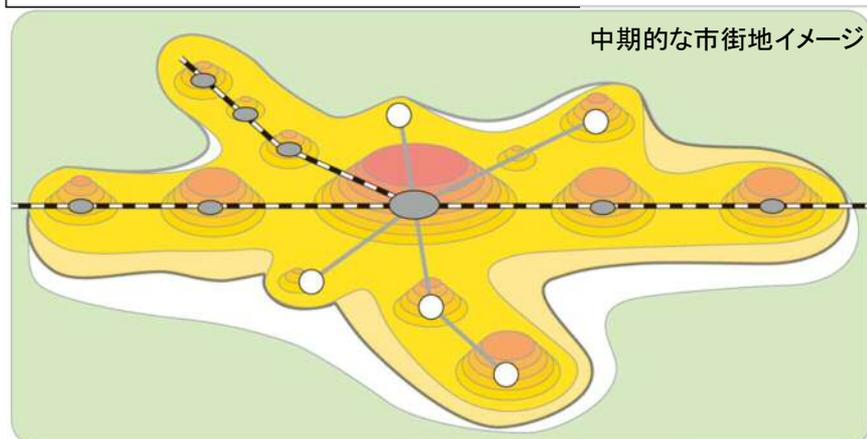
■ 時間軸を考慮した都市の誘導イメージ

「人口減少社会を見据えた都市づくりの始まり」（現在）



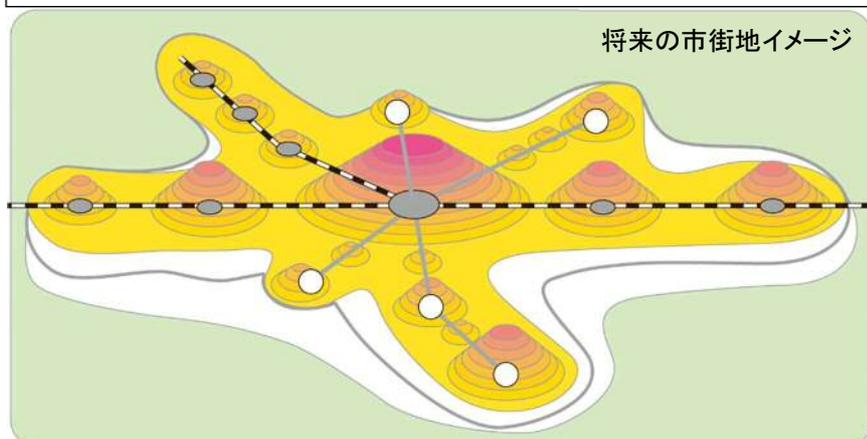
空き家の増加や公共交通の衰退など様々な課題が徐々に浮上しています。
現状を共有し、将来都市像の実現へ向けた、都市づくりを始めます。

「将来都市像の実現に向けた骨格づくり」（転換期）



社会情勢の変化を踏まえながら、公共交通施策と連動して、民間開発を適切に誘導するなど、都市の形を徐々に転換していきます。

『人とまちが健幸で、持続的に発展する交流拠点都市 岡山』（将来都市像）



拠点が充実し、公共交通を中心としたコンパクトでネットワーク化された都市構造により、人口減少下でも便利で活力のある都市を実現します。

(3) マスタープランの評価と見直し

マスタープランは、21世紀中頃を念頭に描きながら、目標年次を概ね20年後の平成50年度(2038年)とする中・長期的な計画であることから、上位・関連計画や立地適正化計画等による評価の状況、国勢調査や都市計画基礎調査等の各種統計データ、市民意識調査等のアンケート調査などを用いて、概ね5年ごとを目途に総合的な評価・検証を行うこととします。

また、評価・検証の結果、本市を取り巻く社会経済情勢の変化、関係法令の改正、上位・関連計画の見直しなどを踏まえて、必要に応じてマスタープランの見直しを行います。

■ 定量的な評価指標例

目標① 中四国の広域交流拠点を目指した都市づくり

視 点	評価指標例
<ul style="list-style-type: none"> ●中四国の発展をリードする拠点都市 ●市域全体の発展をけん引する都心 	総人口、製造品出荷額、卸売・小売業販売額、観光入込客数、都心の人口・歩行者交通量・使用容積率、JR岡山駅の乗降客数など

目標② 各地域の拠点を中心としたコンパクトでネットワーク化された都市づくり

視 点	評価指標例
<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通を軸としたコンパクトでネットワーク化された都市 ●生活の質が高く活力あふれる都市 ●環境と調和した魅力ある地域 	人口集中地区(DID)人口密度、基幹的公共交通路線の徒歩圏人口、市街化区域内の人口比率、空き家率、市街化調整区域の開発許可件数など

目標③ 誰もが移動しやすい都市づくり

視 点	評価指標例
<ul style="list-style-type: none"> ●人と環境にやさしく、誰もが移動しやすい都市 ●人やモノの交流や流通の活性化 ●人中心の歩きたくなる都市 	代表交通手段分担率、鉄道・路線バス等の利用者数、主要渋滞箇所数、都市計画道路・環状道路の整備率、健康寿命など

目標④ 水と緑にあふれた美しく風格ある都市づくり

視 点	評価指標例
<ul style="list-style-type: none"> ●水と緑を感じられる暮らし ●歴史・文化などを感じられる心豊かな暮らし 	都市公園面積、自然的土地利用の面積、耕作放棄地の面積、汚水処理人口普及率、温室効果ガス排出量など

目標⑤ 安全・安心で暮らしやすい都市づくり

視 点	評価指標例
<ul style="list-style-type: none"> ●災害に強く、安全・安心に暮らせる都市 ●誰もが暮らしやすい都市 	住宅・建築物等の耐震化率、火災の発生件数、交通事故件数、高齢者の居住する住宅の一定のバリアフリー化率、ノンステップバスの導入率など

目標⑥ 市民との協働による都市づくり

視 点	評価指標例
<ul style="list-style-type: none"> ●協働による住みよい・住みたいまち ●地域づくり活動や交流が活発なまち 	地区計画策定地区数、生活交通導入地区数、パークマネジメントプラン策定公園数、自主防災組織率など

(白紙)



岡山市都市計画マスタープラン

平成 年(20 年) 月策定

編集・発行 岡山市都市整備局都市・交通部都市計画課

〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1番1号

Tel : 086-803-1372 Fax : 086-803-1741